

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 5 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370231

研究課題名(和文) 鈴木胤の養生論における儒学の受容に関する研究と関連著作の注釈書の作成

研究課題名(英文) A Study about the Yojo-ron of Suzuki Akira, with Emphasis on Its Acceptance of Confucianism and the Making of a Modern Japanese Translation and Commentaries on Suzuki Akira's Yojo-ron

研究代表者

趙 菁 (Zhao, Jing)

金沢大学・国際基幹教育院・准教授

研究者番号：50345641

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：「無病長寿」を目的とした貝原益軒を含む江戸中期までの養生論に比べ、江戸後期の養生論は目的が多様化していた。本研究は、その多様化の様相及びそれを支えた考え方を明らかにする一環として、養生の目的を生活形成・人間形成へと発展した江戸後期に活躍した国学者鈴木胤の養生論について、その儒学の受容の実態、養生に関する独自性を彼の著書『養生要論』『続養生要論』に基づいて考察し、『養生要論』『続養生要論』の現代語訳・注釈書に努めた。

研究成果の概要(英文)：Compared with earlier works on Yojo-ron, such as those written by Kaibara Ekiken and other scholars until the middle Edo period, which aimed at limiting illness and increasing longevity, from the late Edo period the goals of Yojo-ron shifted and became more diversified. Aiming to clarify the aspects of this diversification and the ideas behind the outlook of health in Yojo-ron books of the late Edo, this study analyzed the Yojo-ron writings of Suzuki Akira, a classical scholar who worked in the late Edo period. It clarified the acceptance of Confucianism in Suzuki Akira's Yojo-ron and examined his originality, dealing particularly with his efforts to develop the purpose of Yojo and to create a life form and to build character. This study also contributed to modern Japanese translation and commentaries on Suzuki Akira's Yojo-ron books, Yojoyoro and Zokuyojoyoron.

研究分野：人文学

キーワード：養生論

## 1. 研究開始当初の背景

養生論は神仙術の影響で「不老長生」のための生活実践として古代より江戸中期まで発展していた。その中で貝原益軒の『養生訓』は、最も体系的な内容の養生論として一時代を築いた。しかし、貝原益軒までが養生の目的としていた「不老長生、無病長寿」は江戸後期にいたると必ずしもそのみに捉われず、思想的にも内容的にもきわめて多様化した。江戸後期の養生論は、身体や精神の健康に関わった内容のみならず、社会的な生活や経済的な生活、文化、教養にまで及んでいた。江戸後期の養生論がこのような性格を帯びてきたことは、養生論の歴史をみる上で重要であるし、社会・文化の状況としても無視できない(滝澤利行『健康文化論』1998)。

江戸時代後期に活躍した尾張の国学者鈴木胤は、本居宣長の門人であり、日本語学研究及び漢籍の注釈に関する著書で世間から注目されていた。しかし、彼は晩年、語学研究や漢籍注釈から離れ、養生について『養生要論』、『続養生要論』の二書を著した。鈴木胤の養生論には、予防医学に関する衛生および栄養の基礎知識、簡易な治療法、そして生活形成、人間形成に関する道徳観、教育観、学問観が含まれている。彼は、養生を寿命を延ばすための行いとしてのみ見るのではなく、生命をいかなる質で充実させていくのかという点から論じている。

養生論研究においては、『養生訓』に関する研究が主流であるが、鈴木胤のような学者の養生論については、養生論の歴史を概観する際に言及される程度であって、詳細な考察が行われていない。貝原益軒の養生論を分析することは養生論研究においては重要であるが、養生論の全体像を把握することにおいては、鈴木胤の養生論への詳細な分析が必要である。

鈴木胤研究においては、いままで主に鈴木胤の日本語学研究、『源氏物語』研究は及び

漢籍の注釈の業績について行われたが、鈴木胤の『養生要論』『続養生要論』については、『養生要論』の活字化(渋谷宗光、1972)と『養生要論』の成立及び書肆などについての論説(桜井進、1980)のみである。多くの漢籍の論説を応用しながら養生の論を展開し、独自の学問観、教育観を養生論で表してきた鈴木胤の言説に関する詳細な分析及び儒学の受容実態の解明は鈴木胤研究においても十分に価値があるものである。

本研究はこれまで、鈴木胤の養生論を研究の中心対象としてきて、その中で鈴木胤の養生論が読者から好評を得た理由、そして本居宣長門から辛辣な批判を受けた背景について、弟子、戯作者、宣長門の同輩の評価を中心に考察してきた。つぎに、鈴木胤の養生論に見受けられる医に対する認識、彼が「養生よき人」の理想像を『論語』『中庸』の考えを守りながら独自の教育観を形成していたことを分析してきた。平成21年度～平成23年度科学研究費補助金(若手(B))「江戸時代の養生論の現代的意義に関する研究 国学者の養生論における養生と教養の関係」において、『養生要論』『続養生要論』の内容分析を進める中で、活字化されていなかった『続養生要論』の翻刻を行ってきた。江戸時代の養生文化の一端として、また養生論研究の基礎資料として、鈴木胤の養生論を翻刻にとどまらず、現代においても容易に理解できる形式に編み変える必要性を認識し、『養生要論』『続養生要論』の現代語訳・注釈書を作成することを着想するに至った。鈴木胤及び同年代の他の養生論を支えた生活・人間・自然への考え方は、現代の人々の健康観にも多くの示唆を与えるものと認識し、本研究は自然観、教育観、学問観、道徳観を含む鈴木胤及び同年代の養生観を引き続き考察した。

## 2. 研究の目的

(1) 鈴木胤の養生論における儒学の受容の実

態を究明すること

鈴木胤は『養生要論』において多くの漢籍を引用して「養生ノ道」を説いた。その姿勢は、宣長の後継者である本居大平から不満を招いたほど強かった。「胤は名の知られる古学家であるが、彼は漢学を習った後に宣長の弟子になったため、その心が漢学に染まっており、国学より漢学が先に入っている」との大平の批判は、ある意味では『養生要論』の内容およびその表現の特徴を示していると言える。養生について、鈴木胤は『論語』『中庸』のほか『孟子』『老子』『莊子』『抱朴子』『大学』『小学』『易経』『詩経』『孝経』『左伝』『周易』『戦国策』『史記』『孫子』の説も多く取り上げて養生論を展開した。鈴木胤のこれらの書物を養生論に活用する方法を明らかにし、その儒学の受容を究明することを目的の一つとした。

(2)他の養生論との比較検討を通して養生論を支えた生活・人間・自然への考え方を明らかにすること

養生の目的に関しては、「不老長生、無病長寿」を目指す過程として養生の在り方を論じる『養生訓』に比べ、鈴木胤の養生論には長寿を「多くは天幸なるべし」と捉え、養生はただ寿命を延ばすための行いのみならず、生命をいかなる質で充実させていくのかという見地から論じている。本研究はこれらの養生論の記述を分析することを通して、養生論に見られるこのような変化及び相似を遂げた社会的・文化的背景を検討し、その変化を支えた生活・人間・自然への個々の著者の考え方を明らかにすることを目指した。

(1)と(2)考察は分離するものではなく、それぞれを踏まえながら分析を進めた。

(3)『養生要論』『続養生要論』の現代語訳・注釈書の作成

『養生要論』『続養生要論』は仮名交じりの和文で書かれ、漢字には正式な音訓ではなく俗語で意識したルビが振っていることもよ

くあり、現代では使わない古語もあり、古文や漢文の知識に通じないと理解しがたいことが多い。また、内容においては、古医方、蘭医学の知識を多く援用していて、そして前に挙げた漢籍のほかに、町の逸聞、胤の近辺にいる人々（例えば、医師川村、姉婿の柴田龍溪、我伯兄、或土人、幼き時老人、或侍の妻など）の話も取り上げられているように、多方面にわたるさまざまな情報が盛り込まれている。『養生要論』『続養生要論』の現代語訳・注釈書の作成を目指した。

### 3．研究の方法

研究方法は、各養生論の原典および二次資料を研究書、研究論文も参照しつつ精確に読解し、それを踏まえ儒学の受容実態、養生に関する考え方を比較検討し、現代語訳・注釈書を作成し、出版するまでの準備をした。

### 4．研究成果

(1)養生論を支える生活・人間・自然への考え方を明らかにすることについては、貝原益軒、鈴木胤そしてその同年代で医者以外の養生論著者（劇作家、漢学者、老中など）の養生の目的についての考えを比較検討しながら総合的に論じ、江戸時代の養生観は現代までの健康観念の形成には極めて重要な意味を持っていることを考察、分析した。

また、当初の研究計画にはなかったが、加賀藩の歴代藩主に関する文献に見られる能稽古を用いた養生の記録、幕末の町人生活を記した日記に見られる町人たちが能稽古を用いて心身ともに楽しんできた記録を通して、加賀の人々の生活の中で親しまれてきた能について養生論の視点からその在り方の特徴を考察した。

鈴木胤の養生論、そして能稽古を用いた養生の記録から見られるような日常的な実践による身体への配慮が江戸後期に特に目立

つようになったこと、そして身体や精神の健康に加えて、文化、教養をも含んだ健康形成、人間形成を相互関連的に実現していく構造が江戸後期の養生文化にて具現化されていたことについてその詳細を考察することができた。

(2) 本研究者は2015年8月から2016年7月のサバティカル研修において環境文学の拠点である米国のアイダホ大学で、国際的な研究者のネットワークに参加し、エコクリティシズムによるアプローチを摂取し、本課題の発展に大きな励みと良い刺激を得ることができた。研修を通して、江戸時代の養生観と自然観を分析するにあたって、エコクリティシズムによるアプローチが現代の健康と環境の相互関係における江戸時代の養生論の歴史的重要性を考える上で十分な価値があることを認識した。特に、2016年4月アラスカ大学アンカレッジ校で開催された学会(Knowing One's Place: Understanding the Influence of Place in Language, Pacific Rim Conference On English Studies)のための研究発表準備、研究発表そして学会参加者との交流を通して、1990年代に地理人文学者 Wilbert Gesler が提唱した Therapeutic Landscape (場所による人間の身体、精神に対する療作用) 批評理論に出会い、養生論の現代における意義と価値を認識するにあたって、Healing place という視点からの分析も必要であると思いついた。2016年度、2017年度において、Wilbert Gesler の理論を取り入れ、東京、ソウル、台湾、クラウンプールなど日本国内外で開催された学会で研究発表を行い、Therapeutic Landscape によるアプローチを究めた。そのなか、特に日々環境汚染に曝されている現代人の健康認識・環境問題の対応を考察する際に、江戸時代の養生論がいかなる意義を持つのかについての考察を努めた。

(3) サバティカル研修期間において国際的

な研究者のネットワークに参加することを通して、江戸時代の養生論については、英訳版がある貝原益軒の『養生訓』のみが海外の研究者に知られているが、他の養生論はほとんど知られていない状況であったことを把握した。「無病長寿」を目的とした貝原益軒を含む江戸中期までの養生論に比べ、江戸後期の養生論は目的が多様化していた。本研究が今まで研究対象とした国学者鈴木胤の養生論はまさにその多様化の一様相である。江戸後期の養生論の多様化及びそれを支えた思考を知る一環として、鈴木胤の養生論はそれに値する価値が十分にあると考える。江戸時代の養生論の実態像・全体像を国際社会において、その重要性と存在感を認識させるために、本研究は鈴木胤の『養生要論』『続養生要論』について、これまでの課題であった現代語訳・注釈に加え、当初の計画にはなかったが、『養生要論』『続養生要論』の英訳を取り掛かる準備を開始した。

(4) 本研究は課題完成を目指した中で、江戸時代の養生論の全体像を把握するにあたって、『国書総目録』『日本衛生史』『日本衛生文庫』『日本庶民生活史料集成』及び先行研究を踏まえ、江戸時代の養生書の収集、所在の確認及び翻刻状況について調査を行った。調査の際、いままでの養生研究に言及されていない江戸期の養生書に留意した。例えば『養生問對上』などのような著者不詳の江戸時代の養生書の存在がわかった。江戸初期における一般庶民の身体や精神の養生に対する認識が読み取れるものとして、このような書物が養生研究の対象として十分に価値があると認識した。そこで、このような養生書の存在数量、所蔵先、閲覧可能状況について詳細かつ正確な調査が必要と思いついたのである。調査結果に基づき、新たな「江戸時代養生書出版年表」を作成し、養生研究の基礎資料の完備を目指すことが本研究の新たな目標の一つとなった。

本研究期間によって得られた新たな知見、特に研究成果の(2)(3)(4)を踏まえ、研究計画最終年度前年度の応募を行い、基盤研究(C)(一般)(H29~H32)「エコクリティシズムによる養生論分析及び養生書出版年表と養生書英訳の作成」が採択された。いままでの進展を踏まえ、今後更なる発展を遂げていく。

研究成果を社会に発信するに当たって、2017年4月市民向けの金沢大学サテライト・プラザミニ講演(「江戸時代の健康観 - 養生論に見る人体認識をめぐって」)を実施した。市民から本研究に対する多大な関心が寄せられた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

(1) 趙 菁、「養生論からみた里山」『里山という物語』結城正美・黒田智編、勉誠出版、2017.6、p.257-268

(2) 趙 菁、【書評】*NUMBERS AND NERVES: Information, Emotion and Meaning in a World of Data* Edited by Scott Slovic and Paul Slovic, 『文学と環境』査読有、No.18,2016.35-38.

(3) 趙 菁、*Nurturing Life in the Nuclear Pollution Era: Creating Treatment for Nuclear Disasters Based on Yojo Literature from the Edo Period of Japan*, 『言語文化論叢』査読無、No.20,2016.201-215.

(4) 趙 菁、【NEWSLETTER】「「欠食」時代の養生、「崩食」時代の保養 保養で子供を守るべし」ASLE-Japan/文学・環境学会NEWSLETTER、2015, No.38.35-38

[学会発表](計11件)

(1) 趙 菁、「日本の保養を Therapeutic Landscapes の視点より考える」、「健康」の歴史研究会、「人間文化研究機構 広領域連

携型基盤研究プロジェクト アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開 Asian Society for Social History of Medicine、2017年7月1日、青山学院大学(東京)

(2) 趙 菁、「「養生」から「能」を観る 加賀藩を例として」、日本比較文学会第53回関西大会、2017年11月4日、石川県文教会館(金沢)

(3) 趙 菁、「「保養」考—江戸時代から3.11震災後までのヘルスケアを辿って—」、第36回日本医学哲学・倫理学会大会、2017年11月12日、帝京科学大学(東京)

(4) 趙 菁、*Place, Sociality, Health: Forms of Relocation and Recuperation in Modern Japan*, The 5<sup>th</sup> AHLA International Health Literacy Conference, November 13<sup>th</sup>-14<sup>th</sup> 2017, University of Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia.

(5) 趙 菁、「江戸時代の養生論についての研究」、人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト『アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開』『アジア健康研究の過去・現在・未来』、2017年1月30日、総合地球環境学研究所(京都)

(6) 趙 菁、*Searching for Therapeutic Landscapes in the Era of Health Endangerment*, Symposium on S-F\* and Planetary Healing, November 12, 2016 Tamkang University, Taiwan,

(7) 趙 菁、*Situating Healing in the Era of Nuclear Pollution: How wellbeing is sustained through PLACE*, International Symposium on Sustainable Urban Forest and Environmental Humanities: Global Vision, Adaptation-Green Welfare, and Future Education, ASLE-KOREA, November 4-6, 2016 Dongguk University, Seoul, Korea,

(8) 趙 菁、「養生論の雅俗融合過程に見る人体認識の変遷—「家」に喩えられた身体を中心に」、人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「アジアにおける健康と環境」研究会、2016年11月3日、総合地球環境学研究所(京

都)

(9) 趙 菁、*Place, Word, and Health: Yojo/Yangsheng (養生) Culture in the Pollution Era*、Knowing One's Place: Understanding the Influence of Place in Language, Pacific Rim Conference On English Studies, 2016.4.1-2, University of Alaska Anchorage, Alaska, U.S.

(10) 趙 菁、「養生所・保養所の変遷から「養生」を考える」、人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「アジアにおける健康と環境」研究会、2015年10月26日、総合地球環境学研究所(京都)

(11) 趙 菁、「近世の養生論における養生の目的の変遷」、「健康」の歴史性:「健康」「衛生」概念の歴史的変遷」研究会、NIHU 基幹研究プロジェクト予備研究、2015年1月15日、総合地球環境学研究所(京都)

〔図書〕(計1件)【編集、翻訳】

趙 菁編訳(中国国家基金項目)『大中華文庫西廂記 中日対照』、世界図書出版公司、2016.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

趙 菁 (Zhao Jing)

金沢大学・国際基幹教育院・准教授

研究者番号: 50345641